

サンデン株式会社

2023年12月期決算説明

2024年2月26日
サンデン株式会社 経営財務管理本部
本部長 高橋 純也

目次

1. 2023年 12月期 決算実績
2. 2024年 12月期 業績予想

目次

1. 2023年 12月期 決算実績

- 1-1 決算のポイント
- 1-2 連結決算要約
- 1-3 自動車機器セグメント地域別売上高
- 1-4 営業利益増減分析（前年差異）
- 1-5 営業キャッシュフロー（前年差異）
- 1-6 連結貸借対照表（前年差異）

1-1. 決算のポイント

1

売上高は、前年同期比 36億円の増収(+2.0%)。
為替影響を除くと51億円の減収 (▲2.9%)
為替影響を除く実質面では、自動車機器事業で39億円の減収。
欧州での車両切替による一部車種の商権終息、中国、日本地域における主要顧客向け販売減により減収。
また、前年のシステム系子会社売却により、その他事業での12億円の減収。

2

営業利益は、前年同期比 53億円の減益。
減収、及び販売商品構成の悪化を、原価低減や生産性の向上を始めとした改善施策に加え、
為替差益でカバーしましたが、将来に向けた開発を中心とした成長投資、過去に起因する品質費用の引当等により減益。これらの特殊要因を除きますと、前年同期比 6億円の増益となり、収益体質の改善は進展。
また、新中期計画策定に伴い、構造改革引当金の見直しによる特別利益58億円の計上する一方、
固定資産の減損 24億円を計上し、親会社株式に帰属する当期純損失 34億円。

3

営業キャッシュフローは、前年同期比 195億円の増加により、94億円の黒字化。
混乱が続いていたサプライチェーンの立て直しによる在庫削減や売掛金の回収早期化および、運転資金の効率化による大幅改善が寄与。
顧客、部品メーカー双方の半導体不足は緩和傾向ですが、一方で、足元では紅海封鎖によるサプライチェーンへの影響が懸念されますので、一層の物流効率化を推進。

1-2. 連結決算要約

[単位：億円]

	2022年度 2022年1月～12月	2023年度 2023年1月～12月	対前年		2022年度 2022年 10-12月	2023年度 2023年 10-12月	対前年同期		
			差異	増減率			差異	増減率	
売上高	1,757	1,793	36	2.0%	477	476	△1	△0.3%	
営業利益	△57	△110	△53	92.3%	△2	△46	△44	△1,967.6%	
経常利益	△41	△84	△42	102.5%	△12	△62	△49	△398.0%	
親会社株式に帰属 する当期純利益	△16	△34	△17	108.2%	9	△16	△25	279.0%	
為替	US\$	131円	141円	9円		138円	144円	6円	
	EUR	138円	152円	14円		139円	157円	18円	

※為替：市場平均レート

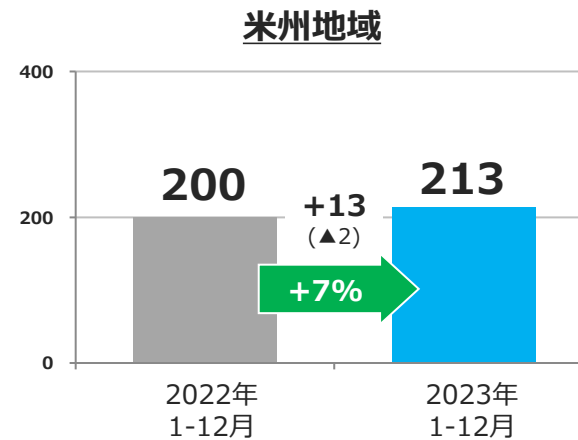
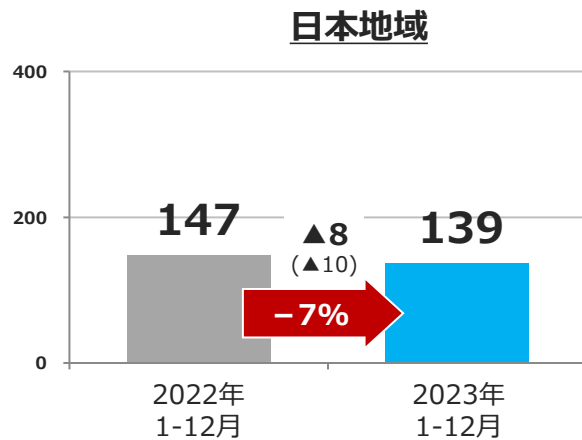
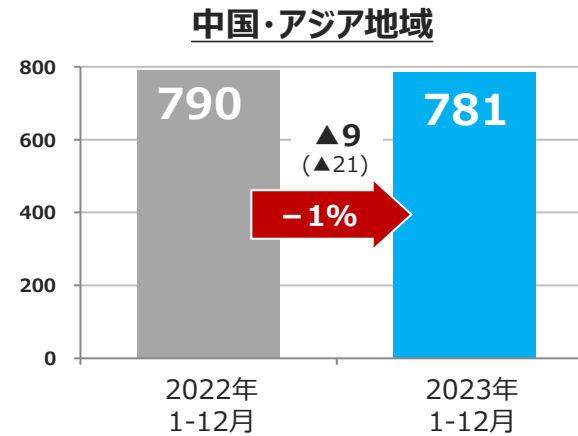
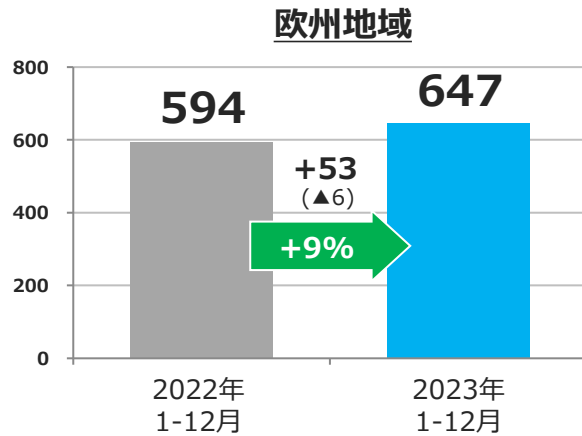
1-3. 自動車機器セグメント 地域別売上高

売上高 1,780億円 +48億円 (前年比+2%)

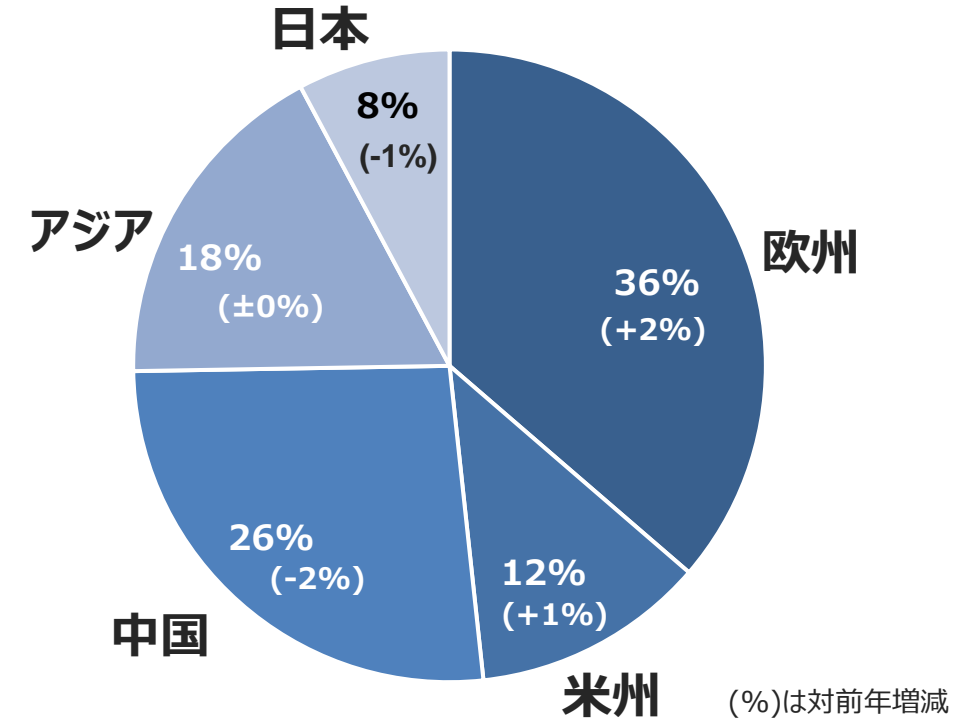
(内、為替影響+87 為替除き実質 ▲39)

■地域別売上高 (2022年-2023年比較)

[単位：億円]
2022年比較金額
(為替影響を除く金額)



■地域別の構成

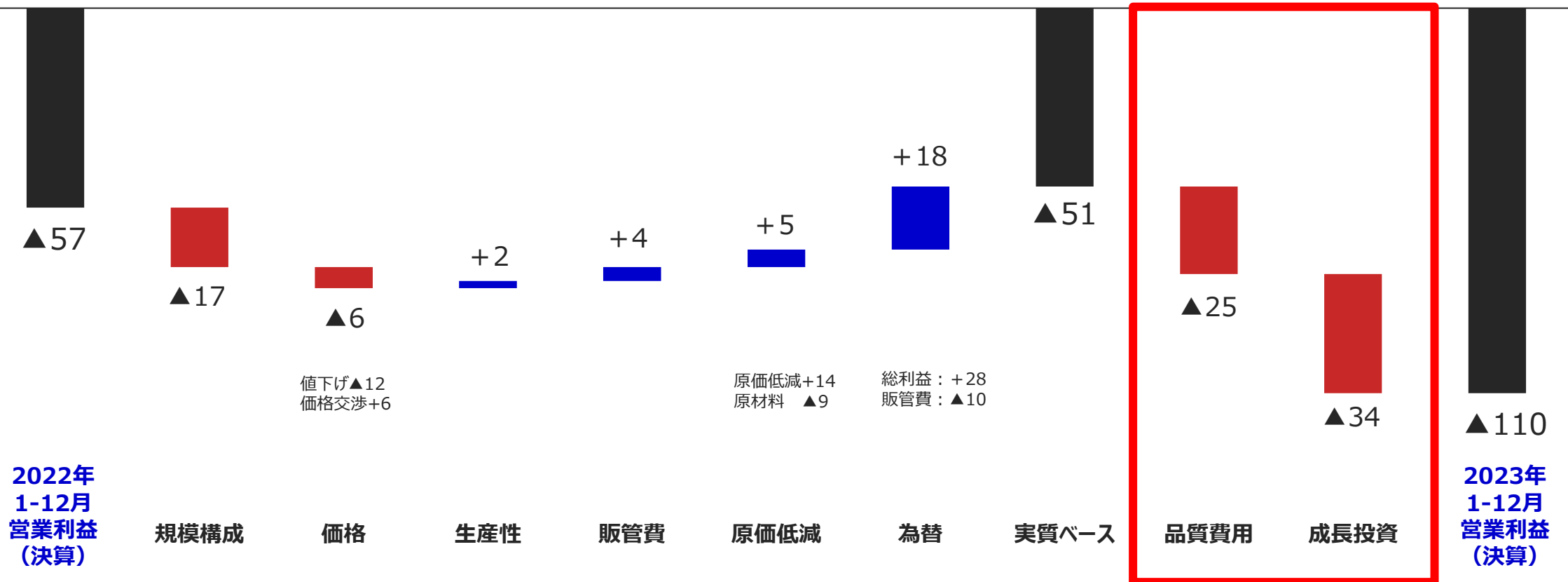


1-4. 営業利益増減分析（前年差異）

[単位：億円]

	前年	当年	差異
売上高	1,756	1,793	+36
営業利益	-57	-110	-53

- 為替影響を除く実質減収、及び売上構成変化による収益力悪化
 - 製造原価改善は進んでいるものの、売上変動を吸収するまでには至らず
 - 過去に起因する品質費用の引当積み増し
 - 将来成長に向けた開発力等の強化継続
- ⇒ 品質費用、成長投資を除いた実質ベースでは前年より+6億円の改善

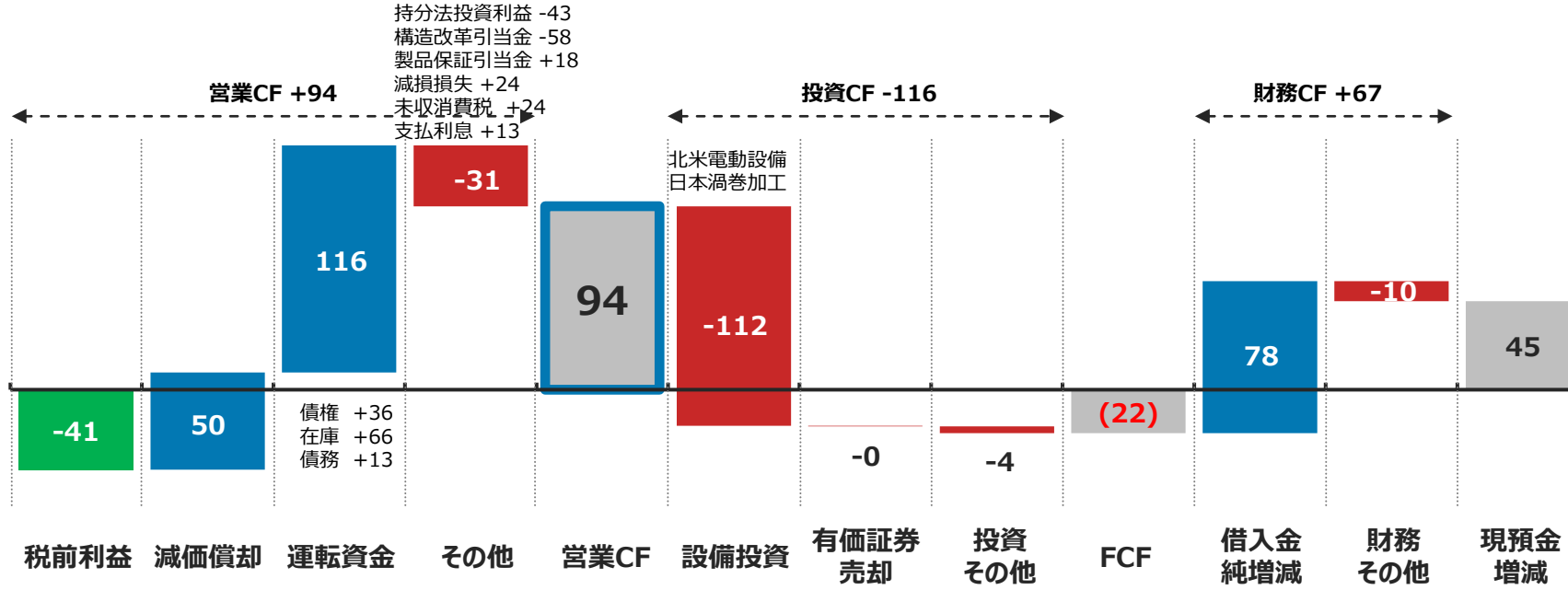


1-5. 営業キャッシュフロー（前年差異）

営業キャッシュフロー黒字化

[単位：億円]

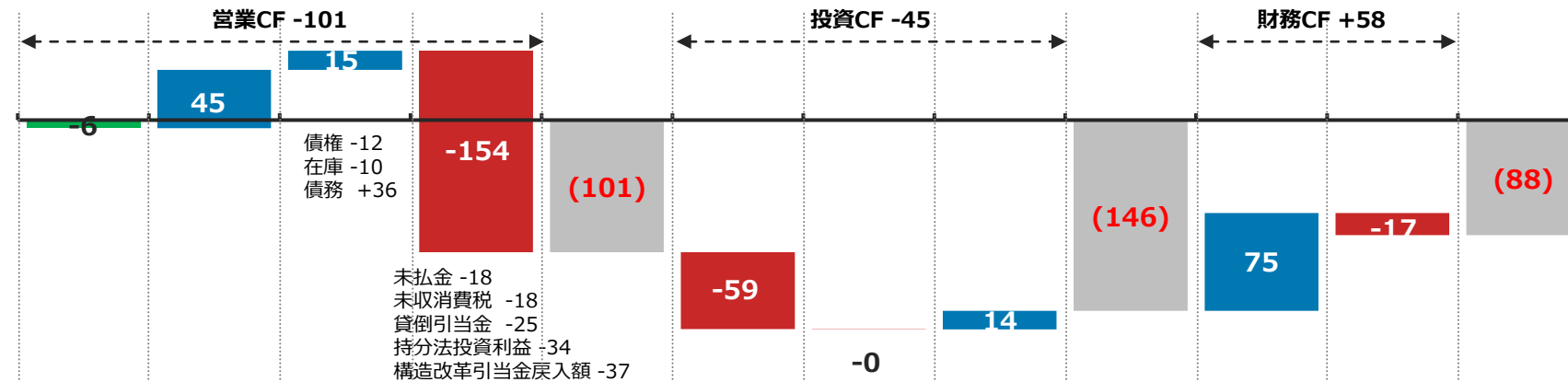
23年
12月期



■営業CF：黒字化
→CCC短縮

■投資CF：積極化
→電動工°設備

22年
12月期

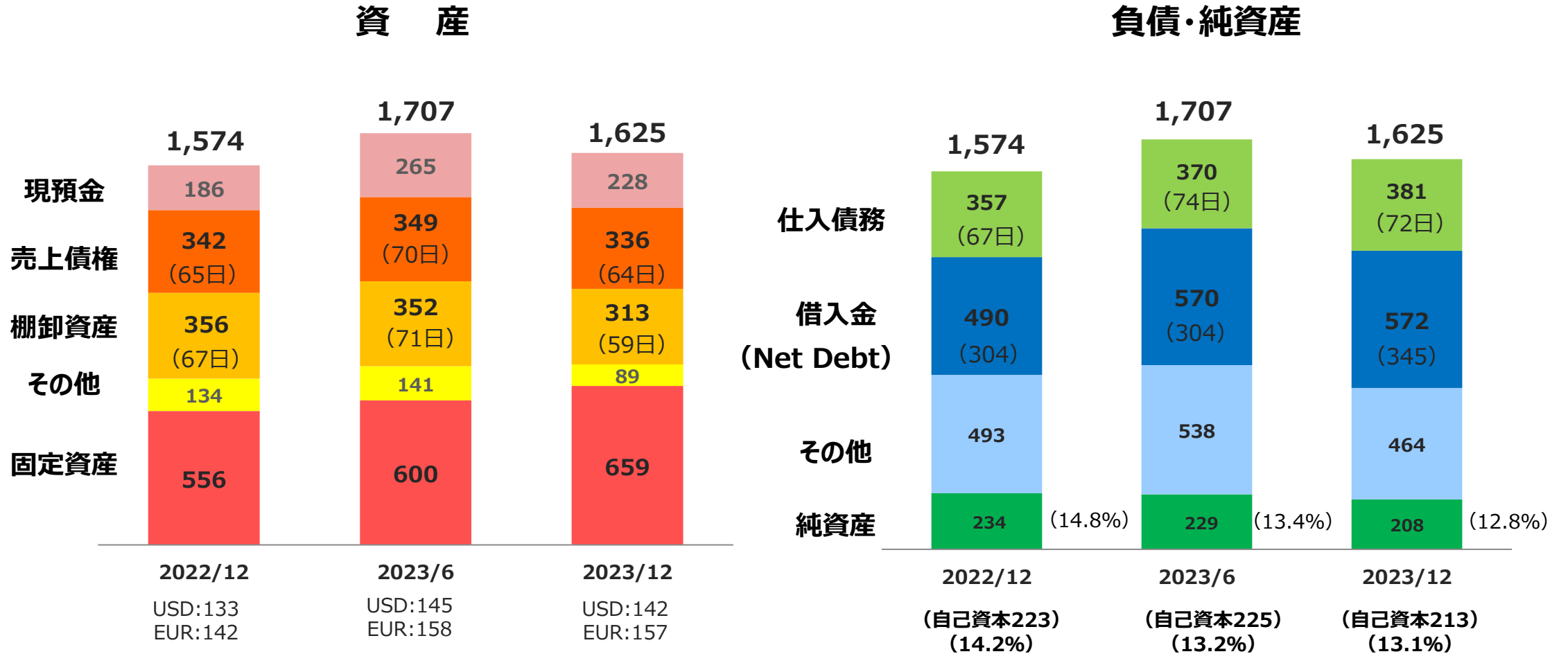


■財務CF：外部調達
→手元流動性維持

1-6. 連結貸借対照表 (前年差異)

*日数：期末残高 / (直近3ヶ月の売上高 / 90)

[単位：億円]



目次

2. 2024年12月期 業績予想

2-1 連結業績予想要約

2-2 自動車機器セグメント地域別売上高

2-3 営業利益増減分析

2-1. 連結業績予想要約

		2023年度 2023年1月～12月 実績	2024年度 2024年1月～12月 業績予想	対前年	
				差異	増減率
売上高		1,793	1,800	7	0.4%
営業利益		△110	△68	43	38.7%
経常利益		△84	△28	56	66.9%
親会社株式に帰属 する当期純利益		△34	△16	18	52.4%
為替	US\$	141円	138円	△2円	
	EUR	152円	150円	△2円	

[単位：億円]

※為替：前年 市場平均レート
予想 弊社想定レート

2-2. 自動車機器セグメント 地域別売上高

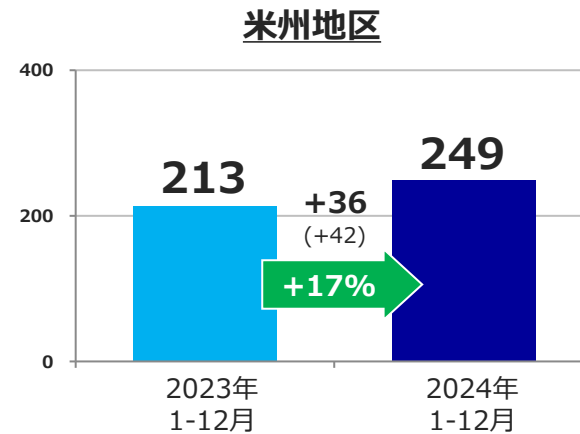
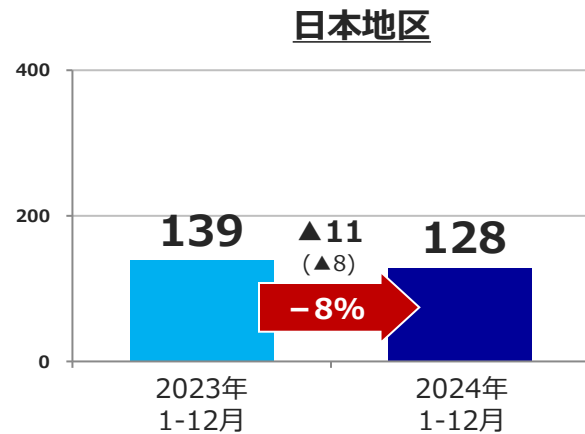
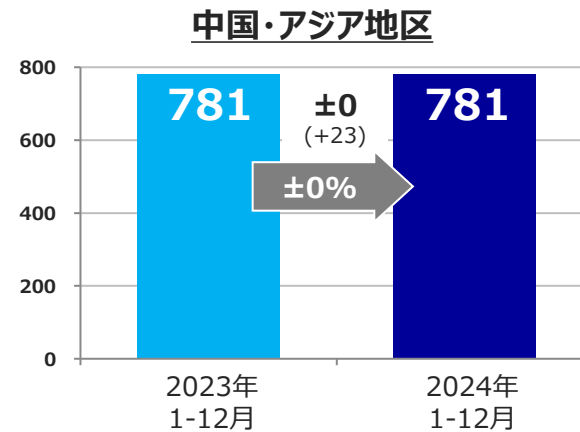
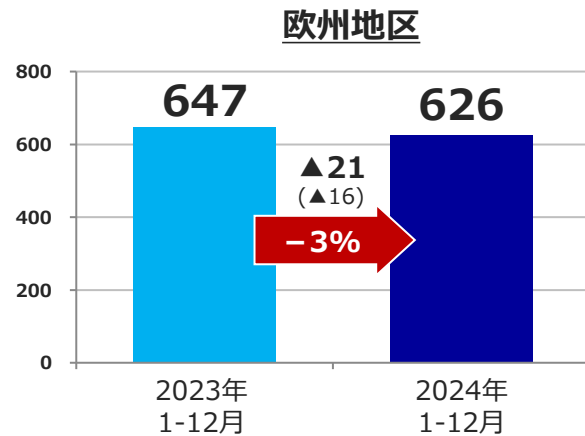
売上高 1,785億円 +4億円 (前年比+0.2%)

(内、為替影響▲37 為替除き実質 +41)

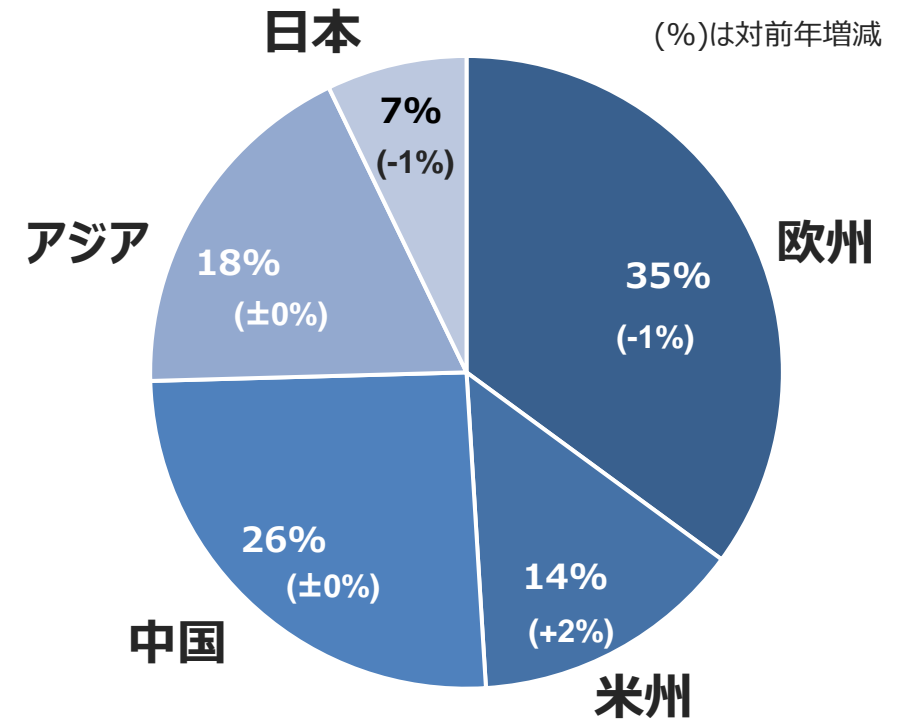
■地域別売上高 (2023年-2024年比較)

[単位：億円]

2023年比較金額
(為替影響を除く金額)



■地域別の構成



2-3. 営業利益増減分析（前年差異）

[単位：億円]

	前期	当期	差異
売上高	1,793	1,800	+7
営業利益	▲110	▲68	+42

- 前年の品質費用を除くと実質▲85億円の営業損失
- 為替影響、電動コンプレッサーの年次価格ダウンが減益要因
- 規模・構成良化に加え、原価低減の強力推進と販管費の効率化が増益要因
実質的な営業利益は、前年の成長投資増加34億円を除くとイーブンの水準。
- 獲得商権及び、更なる商権獲得に向けた成長投資増加により営業損失▲68億円

